



2015年度 聖句

「何事も愛をもって
行いなさい」

(コリントの信徒への手紙
一第16章14節)

— CONTENTS —

izumi TOPICS

- ◆ 学校法人和泉短期大学 2016年度事業計画 2
- ◆ 2015年度入学前教育を受講して 3
- ◆ 卒業生の活躍 5
- ◆ 学長賞特集 5

学校法人和泉短期大学 2016年度事業計画



理事長 深町 正信

今年度(2016年)は学校法人和泉短期大学が設立されて60周年の記念の年であります。最初の学校は東京都世田谷区中町の地にキリスト教児童養護施設で働く職員の養成のための学校として開校されました。やがて、入学者が毎年度増加したため、現在の神奈川県相模原市に校地を求め、新たに入学定員250名の和泉短期大学を開校したのでした。以来、和泉短期大学は現在地にあり「地元密着型」の短期大学として、数多くの良き保育者、介護福祉士を養成し社会に送り出してきました。今年「60周年記念事業委員会」を発足させ、記念講演会、

記念誌の作成、記念式典、祝会の準備にあたることにしました。卒業生の数は現在までに約18500人です。彼らはそれぞれの施設で良き保育者、介護福祉士として活躍してきました。その人材の育成、教育の根底には建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育と、スクール・モットーの「愛と奉仕」による人格の形成があります。これこそは和泉短期大学の人間形成のバックボーンとなっているものであります。和泉短期大学のカリキュラムは保育者、介護福祉士の養成を目指していますが、この実現のためには、実力のある良い教員、職員を一人でも多く必要としています。幸いにも、昨今の教員、職員の働きを見てみると、和泉短期大学の将来に対して、大いに希望が持て、その前途に明るい未来を感じます。本学の教育、研究の現状は昨年度、一般財団法人短期大学基準協会により実施された「第三者評価」の審査で「適格」とされたことによっても証明さ

れ、今年度も教員と職員の一層のスキルの上をはかり、なお一層の教育の充実の成果を期待したい。特に、文部科学省が示した「課題解決策、提案型授業」は本学としても、学長のもとで、重点的に取り組んでいきます。更に、「大学職員の位置と力の飛躍」という中央教育審議会大学教育部会の議論も重く受け止めて、教員とともに職員のスキルの一層の向上と専門的職員の配置を検討し、学長のリーダーシップのもと更なる教育、研究の高度化をはかり、良い教育、研究の成果をあげ、努力していくことに大いに期待したい。

2015年度末に定年を迎えた武石宣子先生には特任教授としてご指導をお続け頂き、また、新たにチャプレン、その他、新しい先生方を迎えて、当然のことながら教育の充実のことに努めることしたい。卒業生が各地で活躍されていることはまことに心強いことであり、また、今後、より専門的学びを深

めるために4年制大学で学びたいという希望者のため、推薦制度を交渉している。更に、相模原市内にある「大学と相模原市との包括連携協定」(青山学院大学、麻布大学、桜美林大学、女子美術大学、和泉短期大学を相模原市長の立ち会いのもと締結するとともに、和泉短期大学はすでに地域における共同研究と協力事業を北里大学、相模女子大学と実施しているが、地域の方々の評価が高いので今年度も続けてゆきたい。キャンパスの将来計画については、まず第2号基本金として将来計画の実現のための資金を蓄えているが、和泉短期大学の校地の一部を貸して、和泉保育園の新園舎が完成したため、キャンパス整備計画の実現を一気に計りたいと願う。

和泉短期大学が当面している課題は決して少なくないが、教育の内容を一層深め、保育者となるべき学生の学びの内容を深め、少しでも、良き働き人を育てるために、キャンパスの教育環境を一層整備してゆきたい。本法人の財務の状況は帰属収入の90%を学生からの学納金によっている。しかし、昨今は入学してくる学生の中に金融機関から

ローンを組んで入学して来る学生も決して少なくないのが現状である。その結果、学生の中には毎日、アルバイトに追われ、大学に不満があるという訳ではないのに、経済的理由から、中途退学する離学者が出てくる。法人としても、大学と協力して、一人でも多くの学生に少しでも奨学金を出せるように工夫したいと検討している。現在の校舎は、現時点で大きな補修をしなければと診断されているが、近い将来、本格的に、抜本的に、新校舎の建設に着手することになるかと思われる。しかし、それまでは補修工事を計画的に丁寧に行いながら、現在の校舎をもちこたえさせたいと願う。

結びに、学校法人の役員である理事、評議員、監事の方々のご指導のもと、建学の精神であるキリスト教の信仰に立ち、スクール・モットーの「愛と奉仕」による人格の形成を堅持しつつ、ガバナンス(統治)とコンプライアンス規則の順守を大事にして、経営と教学の混乱が起らないように注意しつつ、和泉短期大学の今年度の事業展開を考えて、慎重に実施していきたいと願っている。



和泉の学生生活

聖書のことば

チャプレン

伊藤 忠彦 (特任教授)



「荷物のそばにとどまつた者の取り分は、戦いに出て行った者の取り分と同じでなければならぬ。皆、同じように分け合うのだ」

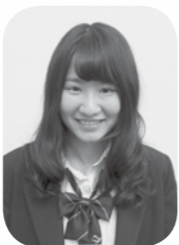
サムエル記上二十四章二十四節 (旧約聖書)

「同じように分け合うのだ」と聖書に書かれています。今から約三千年前に、神を恐れ信頼していたイスラエル王ダビデが、その部下達に命じた言葉です。隣国の敵にもって行かれた財産を奪い返す為に出陣したダビデの兵士たちは、戦いに

勝利し、奪われた財産や戦利品を手にして帰国します。ところが、祝勝の宴が開かれるどころか、敵と命がけで戦った兵士たちと、力不足で戦いの後方支援にまわった兵士たちの間で、持ち帰った財産や戦利品の分配をめぐって、争いが起こったのです。確かに、二千五百年前ギリシャの哲学者アリストテレスが「功績の大小、多少によって配分されることは正しい」と言っています。命がけで戦った兵士たちが、多くの分け前をもらうべきだと言う言い分には理があるのです。しかし、聖書は「強い者は、強くない者の弱さを担うべきです」(ロマ書十五章節(新約聖書))と教えています。同じ理由で、信仰篤いダビデは皆、同じように分け合うのだ」と命じているのです。

2015年度入学前教育を受講して(2016年度入学者)

本間 菜緒 (神奈川県立上溝南高等学校)



私は入学前教育を受講して、和泉でたくさんさんの知識を身につけたいという思いがさらに強くなりました。

「文章表現の技術を学ぶ」という授業では、レポート作成の際に常に見られる意識を持って書くことが大切だということを感じました。

また、「在学生・卒業生メッセージ」で先輩方のお話を聞いて、和泉での学びは必ず将来に生きてくることを知りました。学生生活では、レポートや課題が多く大変なことでしたが、自分が行ったレポートの数だけ、実習や将来の職場で行動するときの自信につながるのだと感じました。

和泉での2年間はとても短く、忙しくなると思いますが、1つ1つの授業で学んだことを大切にしていきたいと思っています。

大宮 和海 (神奈川県立相模原高等学校)



入学前教育を受講し、私は将来への自信と学校生活への希望を持つことができました。

第1回目の入学前教育では、文章の書き方のお話を聴かせて頂きました。「見やすい」文章を書くためのポイントや、正しい言葉の使い方などを改めて確認することができました。私はもともと文章を書くことが好きですが、基本を見直すことでより分かりやすいものを書けるようにしたいです。また「卒業生・在学生メッセージ」では、先輩の貴重なお話を聴くことができ、これからの生活が一層楽しみになりました。

和泉での学生生活は2年と短いですが、それを実りあるものにするために、何事にも全力で取り組んでいきたいです。



2016年度入学者対象 第三回入学前教育



入学前教育 (ピアノレッスン全3回)



幼稚園教諭になりたいと思いつけ、和泉短期大学に進学しました。二年間の短大生活では勉強、その他の活動一つ一つが新鮮で魅力的なことばかり、毎日充実していました。

特にリトミックや絵画製作の授業では、クラスの仲間とにぎやかに過ごしたことが思い出されます。そんな学生生活を送っていく中で少しずつ将来について考え始めました。どんな職場で働きたいか、自分の夢を叶えるためにどうしたら良いか、そしてたどり着いた場所が実習先の園でした。

土まみれ、泥まみれ、草木を育て畑や林の中を駆け巡り、時に食物を育て料理し、発見する毎日でした。笑顔あふれる子ども達と自然の中にある心地よさ、今

の自分を見つめて子どもと共に生きる。そんな生活がここにあると履歴書を片手に飛び込みました。数か月後の採用通知は宝物です。その後七年間、理想と現実を見つめ、常に向上心を持つよう心掛けてきました。

結婚を機に今の職場へ移動し、環境は変わり、年齢とともに立場も変わりましたが、私自身は何も変わらず現在に至ります。三人の子育てをし、母親として教諭として毎日明るく元気な子ども達と過ごしています。

今子ども達を取り巻く環境は必ずしも幸せであるとは言えない部分もあります。日々の生活の中で子ども達がいまいる環境を少しでも多く作りたいと考えています。いつまでも夢をもち続け、その夢に向かって自分のできる一杯の努力をし、明るく楽しく仲良く毎日を過ごしていきたいと思っています。

卒業生の活躍 (第12回)

中原幼稚園副園長(1987年卒業)

井上 聡子さん

この度は学長賞という名誉な賞を頂きありがとうございます。自分のやりたいことに真剣に向き合った結果このように認めて頂いたことに嬉しく思っています。多忙な学生生活の中でも自分のやりたいこと、好きなことを思いきりやることのできる環境があることに感謝の気持ちを忘れず、保育者として社会に出る準備としての和泉での学びの両立に今後も努めていきたいと思っています。

男子バスケットボールサークル
【全国私立短期大学体育大会3位】
1年 主将 井上 亮太



この度はこのように素晴らしい賞を頂きありがとうございます。こうして賞

和泉短期大学学長賞は、在学中に学業や学生生活において優秀な成績を収めた学生または団体を表彰することを目的とし、2015年度より開始しています。

学長賞表彰 (2015年度前期)

第49回(2015年度)いずみ祭執行部

専攻科 品川 実里



この度は素敵な賞に選んでいただきありがとうございます。いずみ祭という

身の成長に繋がるものでとても良い経験になりました。卒業後、この経験を活かし学びに努めて行きたいです。



この度は素敵な賞に選んでいただきありがとうございます。いずみ祭という

大きな場で結果を残すことができて、大変嬉しく思っています。受賞したことを胸に今後の自信の糧としたいと思います。

学修奨励奨学金 (給付)

本学では、学生の学びや生活支援のため、多種多様な給付奨学金を充実させています。学内奨学金制度である2015年度前期「学修奨励奨学金」給付者の言葉を紹介します。※奨学金の詳細については本学ホームページをご覧ください。

2年 谷田 茄瑠

私はこの奨学金を受給し、兼ねてからの夢であった幼稚園教諭になる為により一層勉学に励むことが出来ました。奨学金の制度については先生方から教えて頂き、今回このような形で受給させて頂きました。卒業まで残りわずかですが、学生生活を精一杯楽しみたいと思っています。

2年 保坂 優

実習期間中にアルバイトができない分、学費の貯金をどうしようか悩んでいたところこの学修奨励奨学金を知り応募しました。お陰で学費のことを気にせず実習に集中することができました。とても助かりました。

1年 樋口 朋美

この度、奨学金の奨学生として採用して頂きました。奨学金を受給する際、教職員の方々のサポートが充実していたことが印象に残っています。和泉で2年間の学生生活を送り、日々の勉学に励むことが出来たのは、奨学金を受給していたからだと思えることができました。

2年 金田 馨

一人に一つの奨学金のところ私に二つも給付くださったこと、その事によりもっと学業に専念しようという気持ちを改めて持つことができた事、何より私を奨学生として選んでくださった事に感謝しています。

2年 渡邊 晴夏



TOPICS

オレンジリボン・キャンペーン



2015年11月9日(月)小田急線 相模大野駅 北口広場、11月11日(水)JR横浜線 橋本駅 北口広場にて、オレンジリボン・キャンペーンを実施しました。本学のボランティア学生と教職員が、民生児童委員、主任児童委員、子ども青少年課、子ども家庭相談課、児童虐待防止連絡会、市内児童福祉施設の方々と協力して「児童虐待防止にご協力お願いします!」と呼びかけながら、学生が手作りしたオレンジリボン2,000枚を市民の方々に配布しました。肌寒い日でしたが、学生は元気いっぱい積極的に駅を歩きかう人々へ手渡しました。今回の運動が少しでも児童虐待防止につながればと思います。



淵野辺公園 銀河アリーナイベント ボランティア

2015年11月1日(日) 淵野辺公園 銀河アリーナスケート感謝デーに「みんなであそぼう!ちびっこわくわく広場」というテーマでボランティア参加しました。公益財団法人 相模原市まち・みどり公社と共催するイベントの第2弾として、銀河アリーナを訪れた親子を対象に手遊び、パネルシアター、じゃんけんゲーム、人形劇、体操など楽しいイベントを行いました。本学佐藤学長、松山教授が結集した、19名(1年生:13名、2年生:4名、専攻科:2名)の学生がイベントを盛り上げ、約70名の親子が参加して楽しんでいただきました。



光ヶ丘ふれあい・いきいきフェスタ

2015年11月23日(祝)、「光ヶ丘ふれあい・いきいきフェスタ」が淵野辺公園(相模原市)で開催されました。早朝から大勢の家族が来場され、各種のコーナーやステージ上のイベントを楽しみました。本学は、「和泉プレイルーム」コーナーを設置し、指輪、風船ボール作り体験を行いました。また、11月は児童虐待防止推進月間のため、学生手作りのオレンジリボンの配布を行い「児童虐待防止」を呼びかけました。学生たちが熱心に作り方を教えると、子どもたちはカラフルな指輪と弾む風船に興味津々。笑顔と歓声があふれました。



北里大学共働プロジェクト「こども体験イベント アクアリウム」

2015年11月29日(日)、ユニコムプラザさがみはら(ポーノ相模大野)が、子どもたちの歓声と熱気に包まれました。「こども体験イベント ここに魚が?!遊び場が?! ~作って、遊んで、見て、知って~」と名づけられたイベントには、ミニ水族館、おもちゃ作り、お魚ふれあい鮮魚店など、魅力あふれる6種類のコーナーが設けられ、多くの来場者でにぎわいました。このプロジェクトは和泉短期大学と北里大学の学生が共働で企画したもので、今回は756名の来場者がありました。



全国市議会議長会基地協議会関東部会意見交換会でのハンドベル演奏

2015年11月11日(水)に「全国市議会議長会基地協議会関東部会意見交換会」が、小田急ホテルセンチュリー相模大野で行われました。本学ハンドベル履修学生6名が、千葉仁非常勤講師の指揮により、ハンドベルの音色に気持ちを込めて「Amazing Grace」など3曲を一生懸命に演奏しました。初めて聴く市議会議長の方々もいらして、とても熱心に聞いていただきました。



クリスマスイベント

キリスト教に基づく教育を建学の精神に掲げる和泉短期大学。救い主イエスキリストのご降誕を祝うクリスマスを待つ4週間「アドベント:待降節」で、さまざまなイベントが行われました。

- クリスマスツリー点火祭 11月30日(月)
学生チャペル委員の司会の下、聖歌隊とハンドベルクワイヤの賛美、聖書朗読、祈り、そして参加者一同で歌う讃美歌が夜空に響きました。
- はっぴいクリスマスコンサート 12月12日(土)
参加親子36家族106名、来年度入学予定高校生97名(入学前教育プログラム)、近隣の方など多くの方々の参加の中、学生による絵本の読み聞かせやハンドベル演奏、本学オルガニスト石井三枝子先生によるパイプオルガン演奏、学生聖歌隊による讃美を楽しんでいただきました。また参加されたお子様には、サンタクロースからプレゼントが贈られました。
- クリスマスフェア 12月16日(水)
無料ドリンク、100円ランチ「Christmas カラフルグリルチキン&カレーライス」はあっという間に完売、また売店全品20%オフなど、学生の笑顔あふれる1日となりました。
- クリスマス礼拝 12月21日(月)
本学学生および教職員が一堂に会する中、橋本教会の須田 拓牧師をお招きして「神共にいまするし」と題して説教をいただき、礼拝ではハンドベル履修生によるハンドベルや学生聖歌隊の賛美が行われました。



2015年度「教育環境充実資金」募金のお礼とお願い

和泉短期大学では、教育の充実を図り施設維持整備を目的に、新入生のご家族・同窓生を対象とした「教育環境充実資金」へ募金の協力をお願いしております。

この寄付金により、本学1号館304教室及び305教室にプロジェクターの設置、また300教室整備として、学生への安定的な自主学習の場「ラーニングセンター will」の開所を行いました。

引き続き、教育内容充実に必要な募金への理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●募金対象事業

1) 施設・教育設備の整備(ラーニングcommons整備【整備完了】、2号館(研究棟)外壁塗装工事他、教室プロジェクター設置【設置完了】)

2) 震災・災害対策

3) その他

●設置費用 10,000,000円

●募金期間 2015年6月～2016年3月

●寄付金額 一口5,000円

●募金担当 和泉短期大学 経理・施設ユニット [042-754-1133] にお問い合わせください。



教室プロジェクター



ラーニングセンター will



寄付者一覧(敬称略) <2015年11月1日～2016年1月31日> 80,000円 篠塚和典/土井幸子/中野陽子/平田美智子/以上4名

読売ジャイアンツ元コーチ篠塚和典さんより本学に対し寄付金を頂きました

2016年1月24日(日)、本学において篠塚さんにより、町田市にある児童養護施設バット博士記念ホームの子どもたちのために第10回野球教室を行っていただきました。その際、本学理事長室にて篠塚さんより、土橋事務局長に寄付金を頂きました。

この寄付金は、2015年11月16日(月)に開催された「第1回篠塚和典とその仲間たちのチャリティゴルフ大会」を通じて集まった基金で、国内外で困難な経験をしている子どもたちの健全な成長を支援することを目的としたもので、参加者の方々の心のこもった寄付金です。この貴重な寄付金を本学の「教育環境充実資金」として使用させていただきます。



『ラーニングセンター will』開所 私立大学等教育研究活性化設備整備事業

文部科学省補助金作業部会にて検討していた補助金事業「平成27年度 私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に、本学の申請が採択されました。文部科学省の補助金を受け、300教室を「ラーニングセンター will」に改修し、2月3日(水)に開所式を行いました。

ラーニングセンター willは自学自習を主な目的とした場です。本学図書館と連携し、学生個々人が学ぶこと、発表などに向けて共同で学び合うことなどの主体的な学びを、これまで以上に促進するようにします。また、保育福祉現場で進むICT(Information and Communication Technology)活用に対応できる保育者・支援者養成の場としての機能も併せ持っています。

ラーニングセンター willが学生生活に浸透し、学生に親しまれるような場となるように有機的活用を目指します。



■お慶び(誕生)

■池田なつみ 教育・学習支援ユニット 長男 有志(ゆうじ)くん 2016年1月27日生

訃報 主による平安をお祈りいたします。

■故 岡本 筆子氏 (池田なつみ 教育・学習支援ユニット 御祖母 2015年11月20日)

■故 森住 久子氏 (吉田耕也 教育・学習支援ユニットリーダー 御岳母 2015年12月19日)

■故 井上 勉氏 (佐藤美紀 専任講師 御尊父 2015年12月30日)